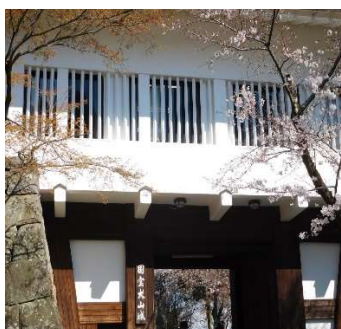


4.犬山城(愛知) 国宝 犬山市犬山北古券 65-2

木曾川沿いの小高い山の上に建てられた平山城で中国長江畔の「白帝城」になぞられる。現存する最古の天守で「望楼型天守」、天守は3重4階で18m、2004年まで個人所有の城でその後の間、4階 高欄の間、石垣は5mの野面積(自然石をほとんど加工しない)。1537年 織田信長の叔父信康により築城、犬山城主はめまぐるしく変わり文禄4年(1595)秀吉の家臣公益財団犬山城白帝文庫歴史文化館となる。1階 納戸の間、2階 武具の間、3階 破風、石川光吉が城主に慶長5年(1600)関が原の合戦後、家康側の小笠原吉次が入城。1617年成瀬正成(幕府の目付家老3万5千石)が改築し成瀬家が幕末まで城主を務める(同パンフ)



大手門と天守



天守の内部



天守から見た木曾川



石垣(野面積)



築城当時からの大杉